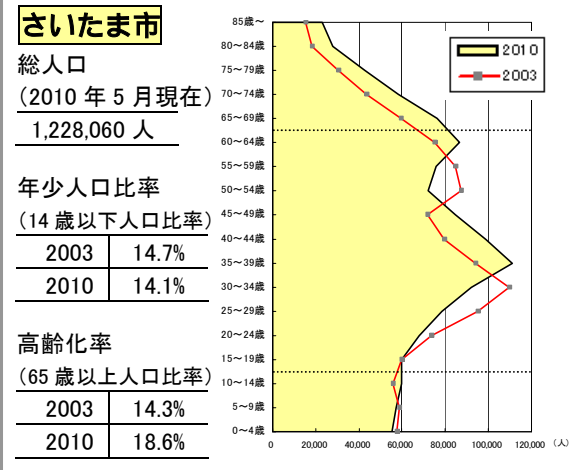


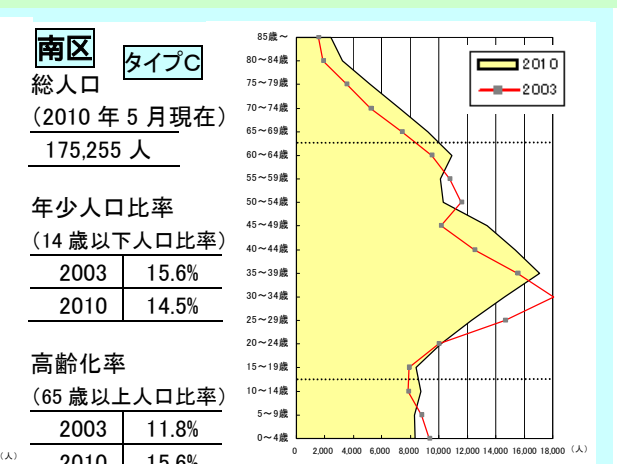
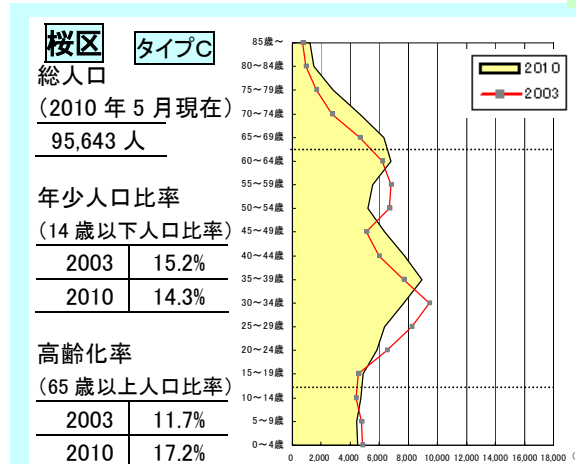
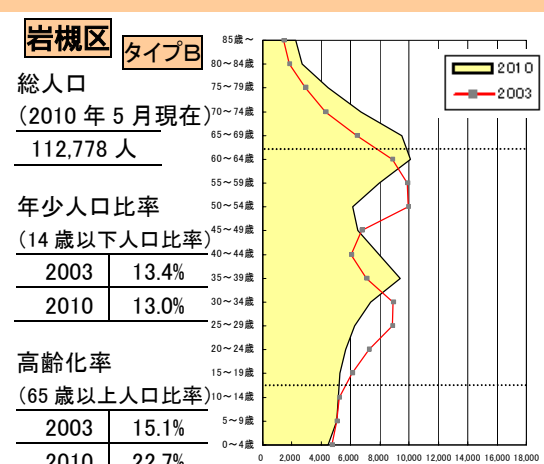
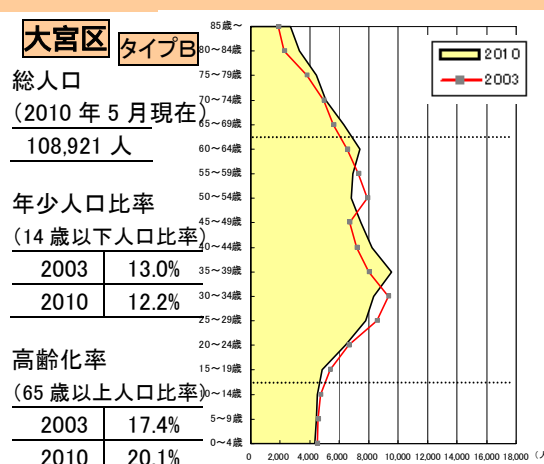
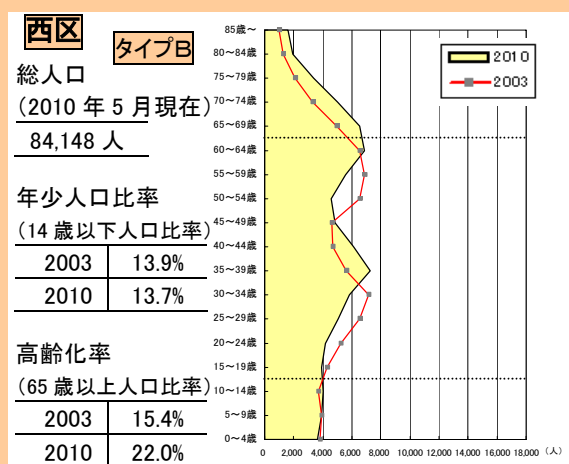
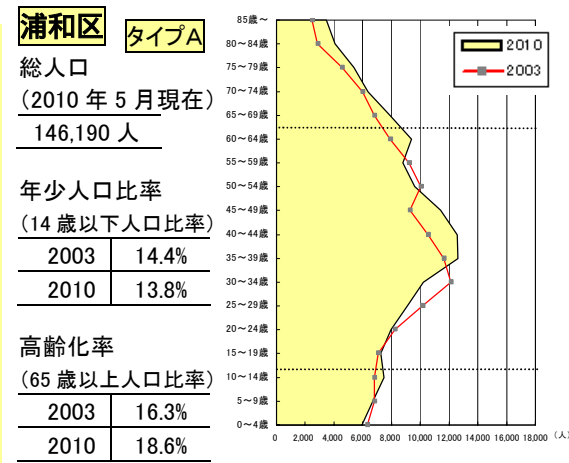
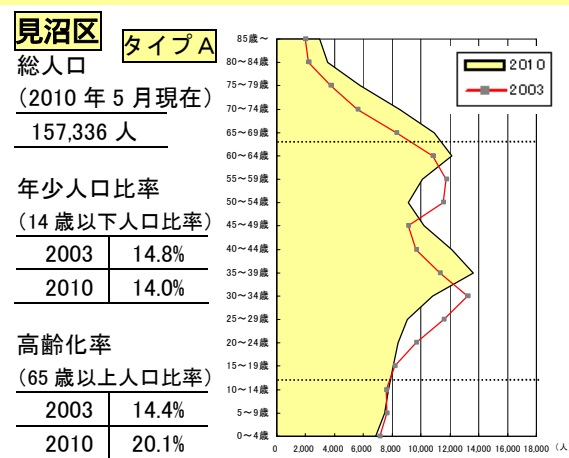
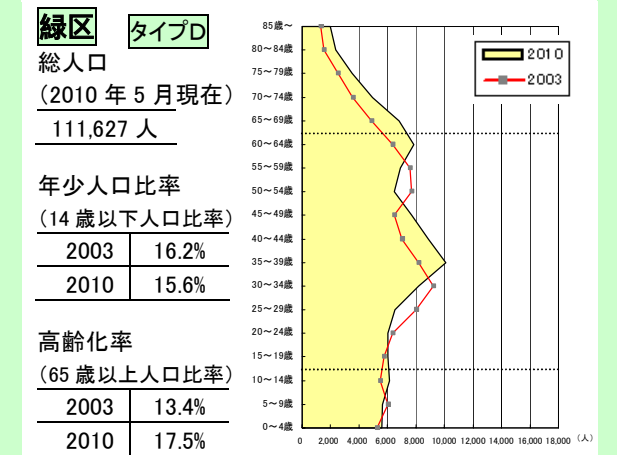
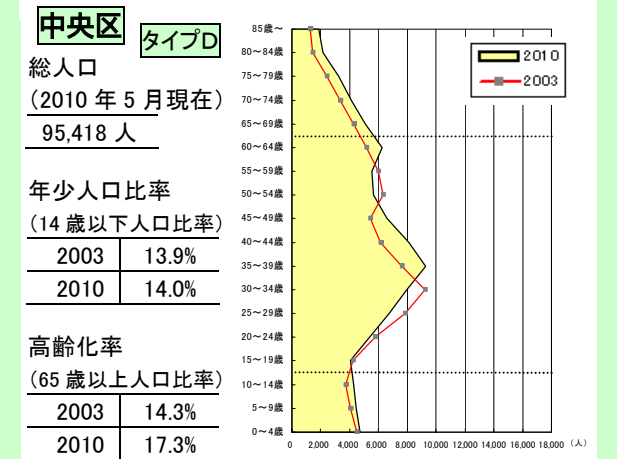
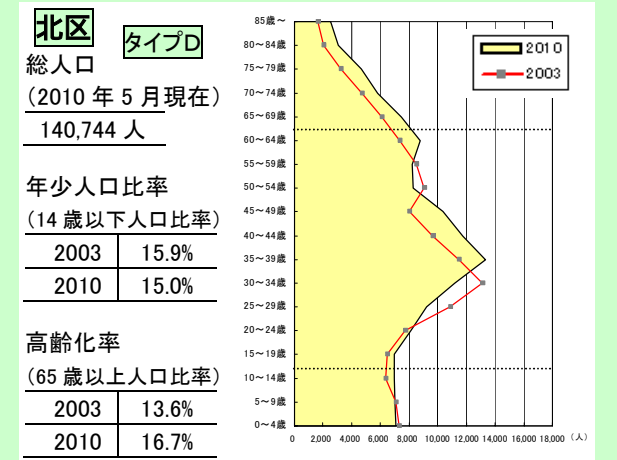
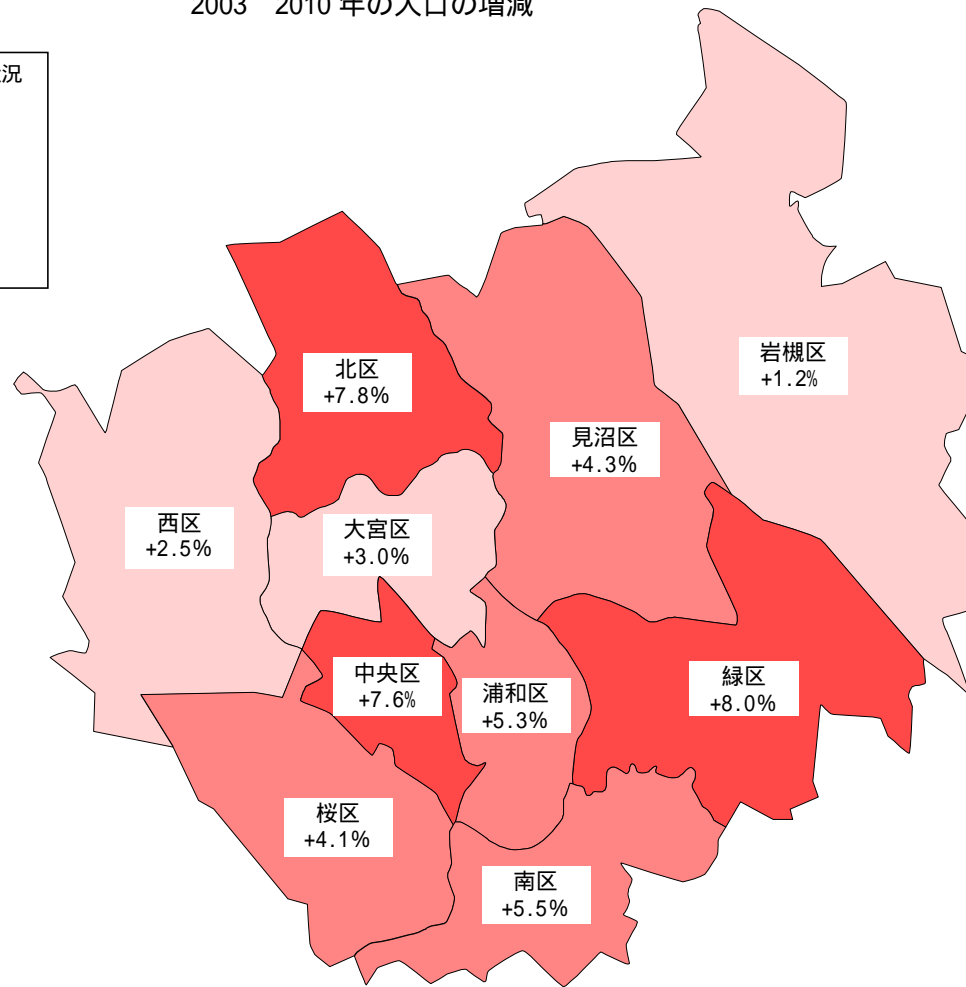
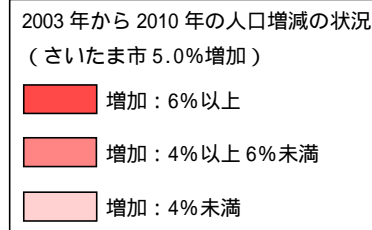
さいたま市の人口 - 区別人口の変化 -



政令市移行時からの人口推移の特徴

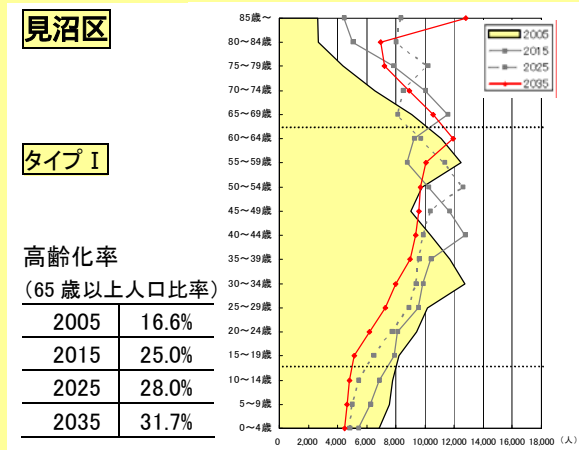
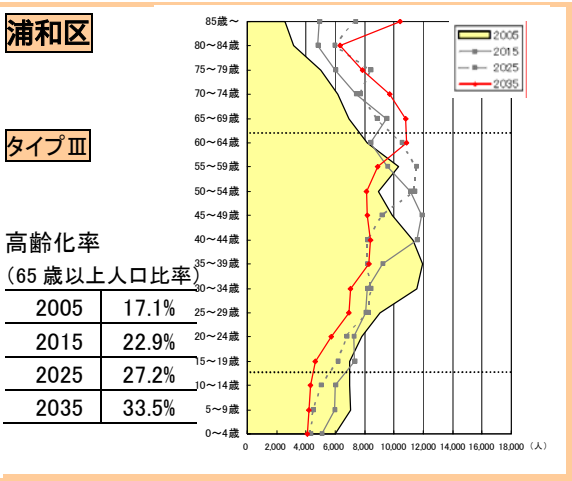
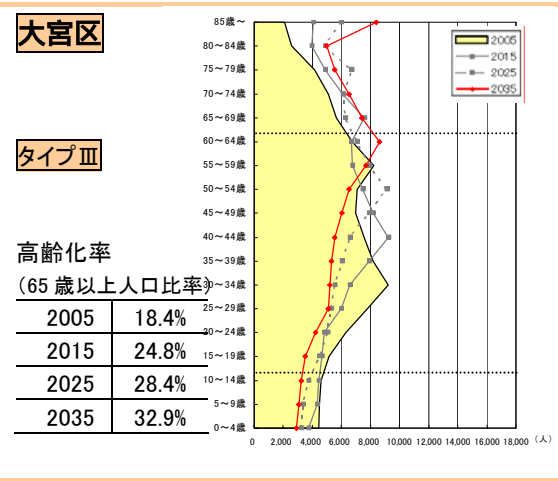
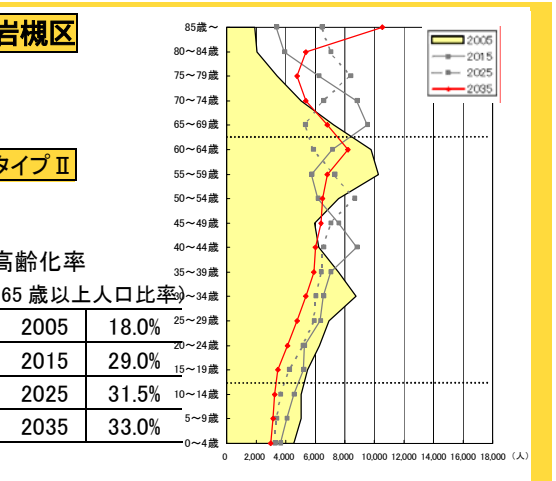
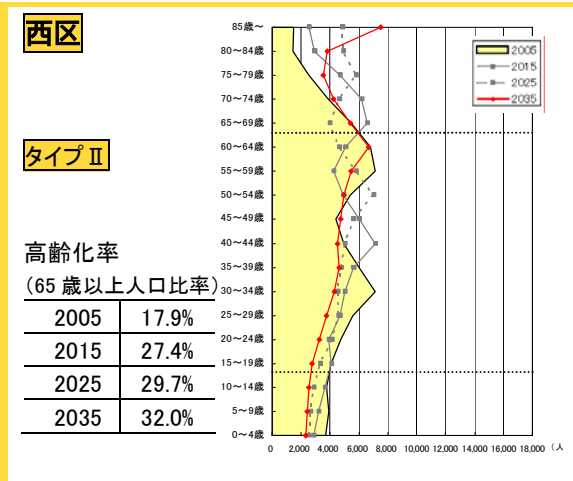
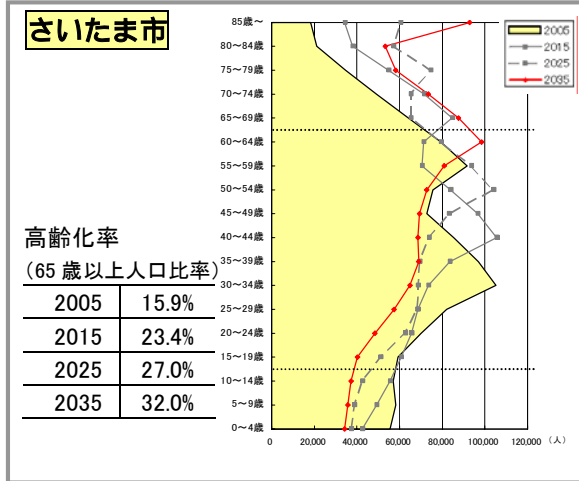
【タイプA】市平均なみ	【タイプB】以前より高齢化が進み、人口横ばい	【タイプC】政令市移行時より若い区	【タイプD】若い人口が流入
<ul style="list-style-type: none"> 政令市移行時より 5%程度の人口増加。 年少人口は増加するも、総人口に対する年少人口比率はやや低下。 高齢化率は急上昇するも、全国平均(23.1%)よりは低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 市全体で 5.0%の人口増加があるのに対し、微増にとどまる。 政令市移行の2003年時点で高齢化率が既に 15%を超え、直近では5人に1人が高齢者。 	<ul style="list-style-type: none"> 政令市移行時から高齢化率が低く、直近でも高齢化率が低い。 人口増加は市全体並み。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口が市平均より大きく増加。特に、団塊ジュニア世代及びその上の生産年齢人口や年少人口が増加。 結果、直近の高齢化比率は市平均より低位にとどまる。

2003 2010年の人口の増減



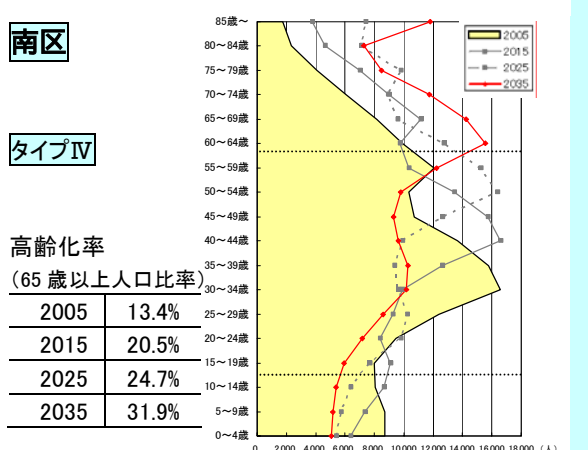
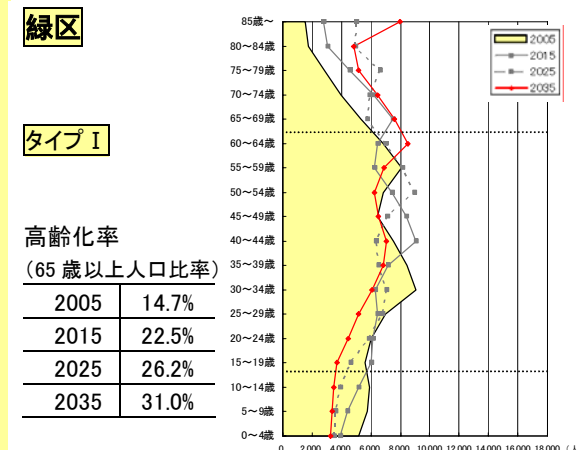
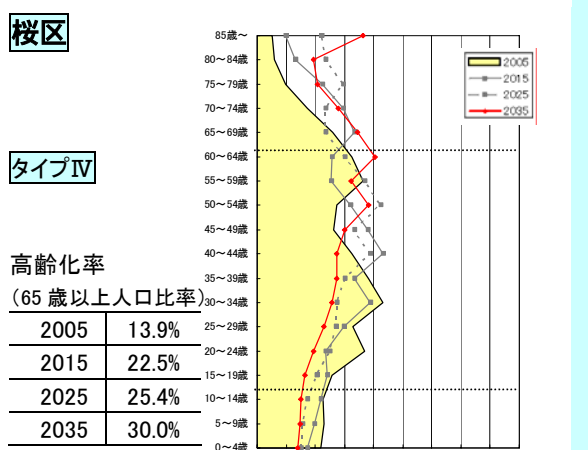
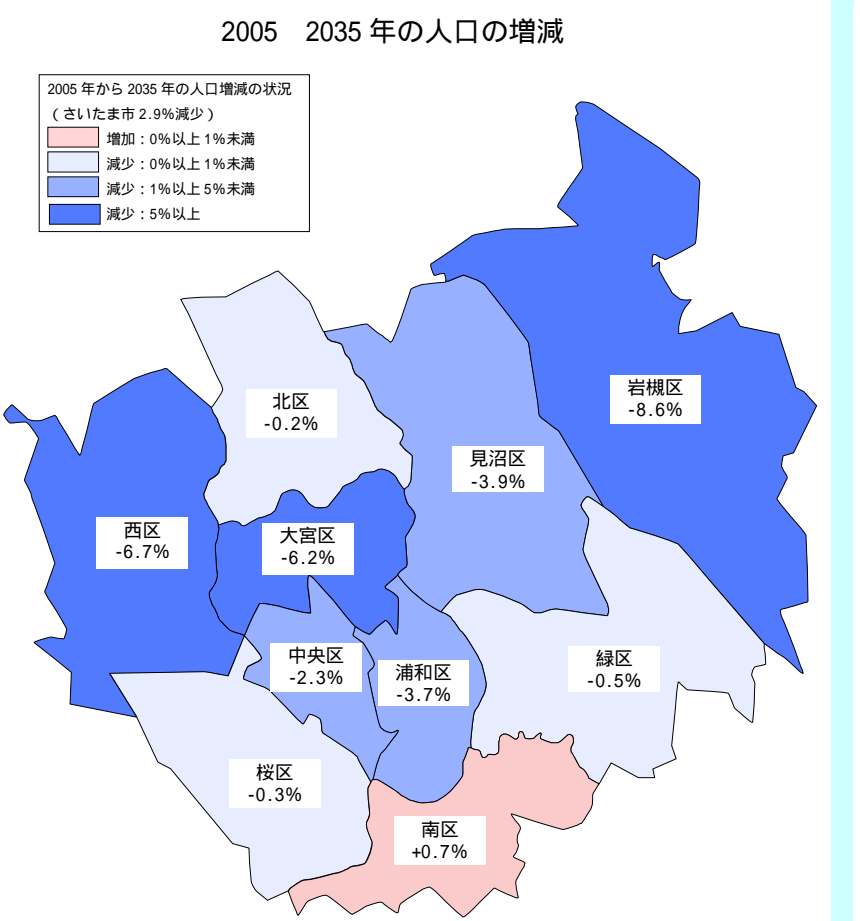
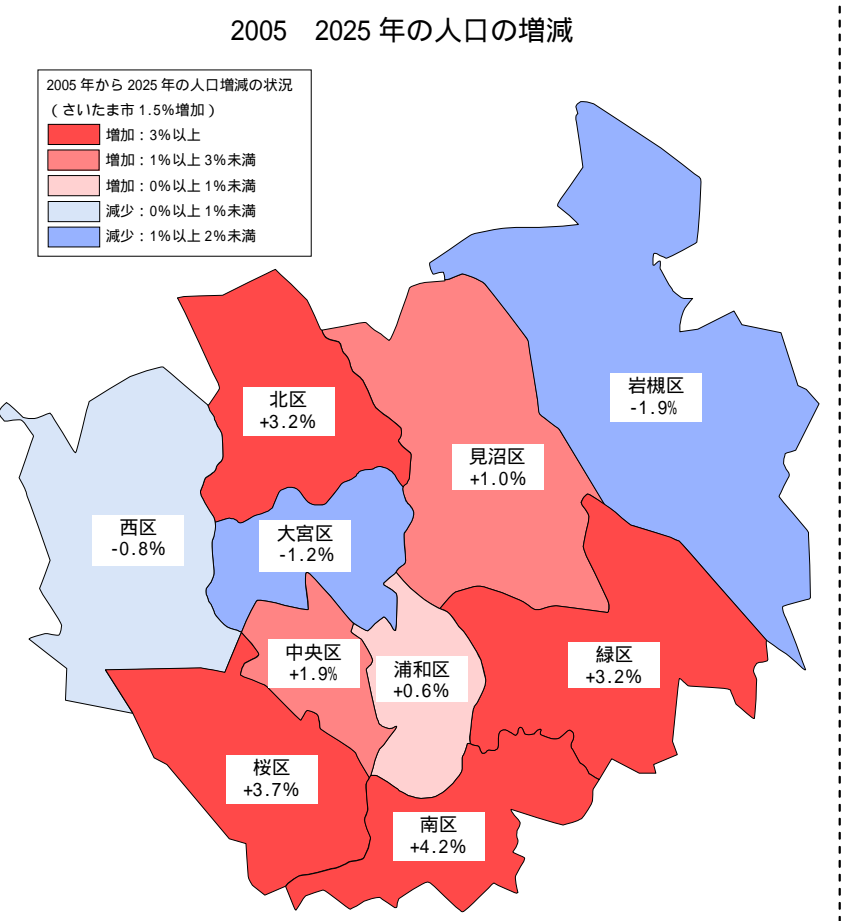
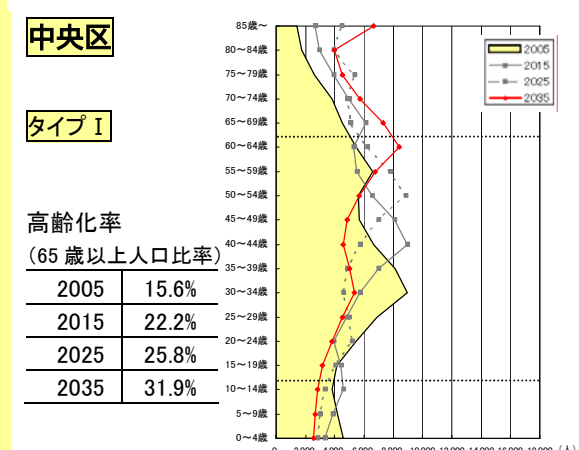
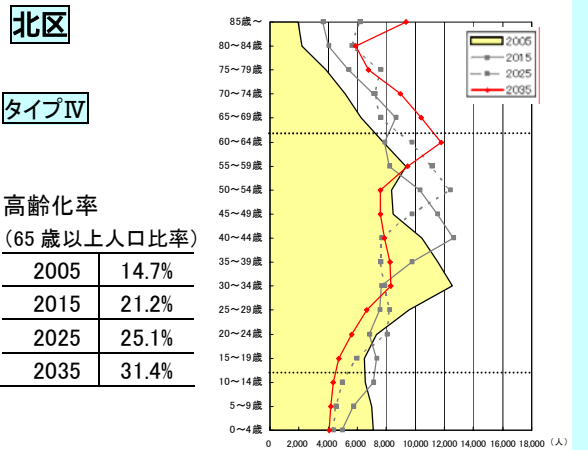
資料：各区グラフデータ さいたま市人口統計「さいたま市の人口・世帯」(平成15年、平成22年) 岩槻市統計書(平成15年版)「人口」をもとに作成。

さいたま市の人口 - 各別将来人口の推計 -



将来の年齢別人口のタイプ別の特徴

【タイプI】市平均(若い市民が多いが急速に高齢化、緩やかに人口減少)	【タイプII】団塊の世代に大きな山、人口減少	【タイプIII】旧市の中心で、団塊の世代以上に厚み	【タイプIV】若年層多く、人口維持
<ul style="list-style-type: none"> 団塊の世代及び団塊ジュニア世代の2つの山がみられ、全国平均と異なり、後者が大きいのが特徴。 2015年には団塊の世代が高齢者層に入り、2035年には団塊ジュニア世代が60～64歳となる。 総人口は増加傾向が今後は鈍化し、2035年になると現状より減少となる。 現状高齢化率は全国平均(20.2%)より低いですが、急速に高齢化し 2035年には全国平均(33.7%)に近づく。 	<ul style="list-style-type: none"> (タイプIとの相違点) 団塊の世代及びその上の世代の山が団塊ジュニア世代の山より大きい。 現状高齢化が他区よりも進展。 2015年には、ほぼ4人に1人、2035年には3人に1人が高齢者となる。 他区が人口増加であるのに対し、2025年までに減少に転じる。2035年までの人口減少幅は市平均より大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> (タイプIとの相違点) 団塊ジュニア世代の山が大きいものの、団塊の世代以上の厚みが大きい。 現状高齢化が他区よりも進展。 2015年には、ほぼ4人に1人、2035年には3人に1人が高齢者となる。 	<ul style="list-style-type: none"> (タイプIとの相違点) 団塊ジュニア世代の山が大きい。生産年齢人口、年少人口が多く、0～4歳人口も一定の厚みを持つ。 2025年までは市平均以上の人口増加であり、2035年までみても人口は微減もしくは微増にとどまる。 現状高齢化率は低いですが、タイプI以上のスピードで高齢化が進み、高齢者は今後30年で2倍超。



資料：各区グラフデータ 平成 17 年国勢調査、日本の市区町村別将来推計人口(平成 20 年 12 月推計)(国立社会保障・人口問題研究所)をもとに推計。